

# 平成 2 8 年度中学入試

## [後期 B 入試]

### 国語科 問題

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて 20 ページあります。

試験中に、印刷がはっきりしなかったり、ページの乱れや抜け落ちに気づいたりした場合は、手を上げて監督者に知らせなさい。

3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[後期 B 入試] 受験番号\_\_\_\_\_

金蘭千里中学校

次の文章を読んで後の問に答えなさい。

「ご飯だよ、と声をかけられて下へ降りると台所に見慣れないものがあつた。

白いプラスチック製でX型に交差した脚の上に箱状のものが載っており、脚の先にはキャスターがついている。ベビーベッドの一種らしい。なかで赤ん坊が寝息を立てていた。

どこでひろつてきたのだろう。

「かわいいだろ」エプロン姿の父が得意げに言った。

「どうしたの」

「知り合いの女の子がしばらく海外へ行くことになってさ。赤ん坊連れだと厳しいって言うから、面倒みてあげることにしたのよ」

「嘘でしょ」声が裏返る。

「いいよなあ。お父さんだつて行きたいよ、海外旅行。世界遺産巡りとかさ」

「いや、そうじゃなくて」

「あ、信じてないな。「注1」俺が空港のセキュリティ・チェックを抜けられない体だつてこと」

「その話はわかつたから。冗談だよな、そのこと」

「おいおい。【 \* 】、はないだろ。タカヤつて立派な名前がある」

マジかよ、とつぶやいていた。

「びつくりさせちゃつたかな。ま、そんなわけだからよろしく頼むよ」

ほい、本日の戦利品、と父はスーパリーの買い物袋を差し出した。

夕食の献立はレンジで温めた鶏の唐揚げと焼きそばにポテトサラダ。総菜コーナーに並んでいたものだが、パックから皿にうつし替えられて食卓に供される。父のささやかなこだわりだ。

食事をするあいだ赤ん坊は静かに眠っていた。

「いい度胸だよな。将来大物になるかもしれないぞ」ビールを缶からじかに飲んで父が言う。

「いつまで預かるの」

「いつまでだつて」と首をかしげ目が合うと父は笑つた。「冗談じょうだん。十八日後っていうと……うん、この日だな」冷蔵庫に貼ったカレンダーを指さした。

父にびっくりさせられるのには慣れていて、と黙っていた。親類でもない赤ん坊を預かってくることにもたまげたが、三週間近いとは。

保育士でもなんでもない。三年前までは父はごくふつうのサラリーマンだった。

会社を辞めてからはアパートと貸家からの不動産収入で暮らしている。相続アゼいなんかこの世から消えてしまえ、というのが口癖の父がために仏壇に手を合わせるのには家や土地を遺してくれたごいせんぞ様への感謝のためだ。もし僕が母親なら乳呑み児の面倒をみてもらうのにもっとふさわしい相手を探すだろう。

「預けるほうも預けるほうだよ。ありえない神経してる」

「そうか。彼女の旦那や親御さんも俺のこと知ってるし、お互い信頼し合っていればべつにおかしくない話だと思っけど。赤ちゃんもまだ人見知りしてないし」

「だから困るよ。なんで相談してくれなかったの」

「注2」ノープロブレム。お父さんがちゃんと世話するから」

そういう問題じゃない。繊細だった母がどうして結婚相手としてこの人を選んだのだろう。答えを得られない問いを思い浮かべずにはいられなかった。

四年も経つというのに僕はまだ母の死を乗り越えられずにいる。父もそうなのだろうか。もっとも父は母を喪うのと同時に、僕という問題をかかえることになった。感謝こそすれ批判する資格など自分にはないことを本当はわかっている。

夕食後、夜中までに赤ん坊は四回泣いた。三十分近く泣きやまなかったこともある。二階にまで泣き声が響いて、テレビを見ていてもゲームをしていても気になって仕方がなかった。

一度父が外へ出て行った気配があり、下に降りてスポーツ飲料を飲んでいたりやがて赤ん坊をおぶって帰ってきた。

「車が好きなんだよ、男の子だから」うれしげに言った。「注3」環七の歩道橋まで行ってきた。救急車とかパトカーがサイレン鳴らして通ると、もう大よろこびだよ。不謹慎ではあるんだけどな」

赤ん坊はだらしなく口を開けて寝入っていた。父の上着の肩にしみが広がっている。赤ん坊のよだれだと気づくとなげだかひどく腹が立った。二階へ上がるとまっすぐベッドに飛び込んだ。

眠れない。何度も寝返りを打ったあげくまぶたを開いた。

中学生の時から使っている机はデスクトップ型のパソコンに占領されている。漫画や小説やゲームの攻略本が中心の本棚。CDとMDが再生できるミニコンポ。ゲーム機とつないだテレビはいちおう液晶だが十四型だ。カラーボックスには

CDやテレビ番組を録画したDVD、フィギュアなどが雑然と並んでいる。数えるばかりの衣類は押し入れの収納ケースで事足りた。

僕の社会生活が一般的な意味での終わりを遂げて以来、一日の大半をすごしているこの六畳間の時間は本質的に止まっている。誰に強制されているのでもないのにときどきまるで牢獄に閉じこめられているように思えるのは奇妙なことだ。

赤ん坊の世話をするという父のウゲンめいは嘘ではなかった。

ミルクをやり離乳食を与えておむつを替え、湯浴みをさせて遊んでやり寝かしつけた。僕とちがつて風呂好きの父は浴室で二時間も三時間も費やしていられるのだが、赤ん坊が泣き出せば十分そこそこでも水をしたたらせながら飛び出してきたし、夜中でもすぐに跳ね起きて面倒をみた。

赤ん坊の世話は他のすべてに優先された。授乳のために僕の夕食が遅れたこともある。ベビーベッドは台所から茶の間に移された。それはいい。しかし、食事をしながら茶の間のテレビを観るとき音量を落とさなくてはいけなくなったのは許しがたい。

父はよくいい加減なことやほら話を口にするが、今回は約束を守った。だからといって僕の生活リズムが乱されないといいうわけではなかったのだ。

週末が訪れた。

土曜日の昼は定番のカレーだった。父の数少ない得意料理で僕も楽しみみな献立だ。隠し味にチョコレートを入れるのがこつらしい。おそろべきことに父はその上に好物の納豆を乗せて食べる。

「どうだ、まあくんもひと口だけ。大丈夫、こうすると一番食べやすいんだって」と鼻先に突きつけてきた。「体にいいんだぞ納豆は。血圧だつて下がるし」

「勘弁してよ、マジで」いつものことなのだが今日は本気で怒りがこみ上げてきた。

食事の最中に赤ん坊が泣き出し父がすぐにおむつを替えた。茶の間から漂ってくる臭いでうんちをしたのがわかった。こつちが泣きたい気分になる。おむつ替えをすませた父は何事もなかったかのように残りのカレーを食べ、グラスの水を飲み干した。

「あとでウルトラマックス行こうか」

車で二十分ほどの場所にあるエフクゴウ商業施設だ。

まだ父がオツとめに出ていた頃は、土曜か日曜の昼下がりにドライブに行った。唯一の外出の機会だったが目的地に

いても僕は車から出なかった。例外はただ一回。クーラーの力<sup>き</sup>いた車内<sup>む</sup>にいても日焼けしそうな夏の日、駐車場<sup>ちやうじやうじやう</sup>に父が車を停めた<sup>と</sup>とたん、助手席をとびだしてまだほとんど消化されていないカレーをアスファルトにぶちまけた。以来車に乗せてもらうときには乗り物酔いの薬を飲むようにしている。

ウルトラマックスには「注4」新古書店がある。漫画や小説やゲームソフトのリストを渡すと、父はそれを元に買い物をし入手した品物を僕に渡して店に引き返す。他のものを買うあいだ、僕は車のなかで漫画を読んで待つ。

父が会社を辞めてからもウルトラマックスへのドライブはカレーとおなじく週末の行事として残っていた。車内に留ま<sup>とど</sup>っていて外出は大きなストレスを伴う行為だ。知り合いに見られる懸念<sup>けんねん</sup>からいつも帽子を目深<sup>まぶか</sup>にかぶっている。意識過剰<sup>かじよう</sup>だ、言うまでもなく。僕のことなど誰も覚えていないだろう。でもこんな暮らしを四年間もつづけていると他人の目が最大の脅威<sup>きやうい</sup>になる。

父だって内心では僕の社会復帰を望んでいるにちがいない。けれど無理強いはしなかった。

高校を中退すると告げたとき、一度だけ将来はどうするつもりなのかと父に訊ねられたことがある。返事をする代わりに目の前<sup>まへ</sup>にあったマグカップをつかんで食器棚に投げつけていた。ガラスが砕け破片<sup>はへん</sup>が飛び散る大音響<sup>たいおんきやう</sup>が響きわたった。世界が終わるかと思うほどの音だ。

父は目をみはった。当然だ。僕はもつと（A）していた。とんでもないことをしてしまったと（B）しながらも、そこでやめることはできなかった。立ち上がると食卓をひっくり返し、椅子をつかんで食器棚にふり下ろし茶の間に突入<sup>とつにやう</sup>するとテレビや襖<sup>ふすま</sup>、さらには縁側<sup>えんがわ</sup>の窓ガラスへとありつた力の力で叩きつけていた。

やがて疲れて椅子を下に置いた。（C）の念に襲<sup>おそ</sup>われる。手も足も怪我<sup>けが</sup>をして血で汚れていた。（D）状態から覚めると片づけをはじめた。父が手伝ってくれた。悲しげな顔をしていた。

父はとがめなかった。追いつめられた僕が、「注5」母が死んだときのように馬鹿なことをしでかすのを（E）していたからだろう。もともともつたに怒らない人だ。もどかしく思えることもあるがそういうところは嫌いじゃない。ドライブを断らないのは、たぶんそれが理由だ。

「でも……あの子は」  
その三文字を口にするのに強烈な抵抗<sup>ていこう</sup>があった。僕にとって赤ん坊は生活圏<sup>せいかうけん</sup>の秩序<sup>ちつじよ</sup>をおびやかす侵入者<sup>しんにやうしん</sup>、招かれざる客<sup>きやく</sup>なのだ。

「連れて行くよ、もちろん。ひなた」  
「もさせてやれるし」

「じゃあ嫌だな」反射的に答えていた。

「あの子はチャイルドシートでおとなしくしてるよ。車は見るのも乗るのも大好きだから」  
「嫌なもんはいやなんだよ」

父は僕を見て微笑んだ。立ち上がりベビーベッドに歩みよる。傾けることのできるベッドはほんの少し頭のほうを起こした位置に調整されていた。

「困ったねえ、タカヤ。まあくんはお前さんのことがおっかないんだってさ」赤ん坊に話しかけている。「おかしいでちゅよねえ。タカヤよりずっとおっきいのにねえ」二階へ上がるつもりで席を立った。

「あ、笑った」父だ。「ほら見て」らん、まあくん」  
その口調につられて足を止めていた。

まだ赤ん坊の顔をちゃんと見たことはなかった。疎ましくわえて慣れない生物にいくばくかの不気味さも感じていたからだ。ただいつまでも拒絶しているのは大人げないような気もしてきていたし好奇心もなかったわけではない。

テイベアがプリントされたクリーム色のつなぎを着て、空色のクツシヨンに包まれた赤ん坊は笑っていた。山なりになったまぶたの隙間から覗く黒目が輝き、口の両端はピンクでつやつやと盛り上がったほっぺたへと弓なりに吸いこまれている。

疑うことも知らず細胞のひとつまで安らいでいる存在。なぜだろう、直視するのがつらくなってくる。

「だっこしてみるか」質問の意味を解した僕がかぶりをふった。

すると父はだしぬけに赤ん坊の両脚をつかんで勢いよく交互に動かした。自転車のペダルを漕がせるような動きだ。「ほーらーほらほらー」

肝をつぶした。そんなことをしたら泣くのではないか。が、赤ん坊はきゃっきゃつと声をあげて笑った。ベビーベッドから父が抱き上げる。

「高い高い」赤ん坊は顔をこわばらせ、それから「あーっ」とはじけるような声を発した。

「ほうれ高い高い」上下させると小さな体からさらに大きな歓喜の声があふれた。

父もお気楽な笑い声をこぼれるままにさせている。そんな姿を眼前にするのは何年ぶりだろう。見てはいけないものを見ているような気になった。

本当にたんなる知り合いの子なのだろうか。

「まあくんも抱いてみるか」

「嫌だつて言ってるじゃん」自分でも意外なほど険悪な声が出た。

「なんだよ。どうした」

言いたいことはあるはずなのに言葉にならず、黙だまつてにらみつける。父の腕うでのなかで赤ん坊が声をあげて泣きだした。さつきまでの笑顔が嘘のように顔をゆがめている。

「あーあ、泣かしちゃった」父は赤ん坊を抱きよせ「びっくりしちゃったねえ。ひどいお兄ちゃんてちゅねえ」とあやしたが迷惑音めいわくおんはいつそう強まった。

罪悪感を覚えた。しかし、わめき声という武器で攻撃こうげきされているようにも感じる。

「んー、いい子いい子。心配ないでちゅよー」頬ほつぺたに口をつけ息を吹きかけると「ぶぶぶぶー」という音が出た。信じがたいことに赤ん坊は、あひゃつ、とくすぐったそうに声をあげ涙なみだを光らせたまま笑った。

「うーん、かわいいなあ。ぶぶぶぶぶぶー」

見ていられない。ふたりとも死んでしまえ。胸の内でキああくたいをつき二階へ上がるとベッドにダイブした。

(里見蘭「さよなら、ベイビー」より 一部改めたところがある)

「注1」俺が空港のセキュリティ・チェックを抜けられない体だつてこと：父は昔交通事故で大腿骨だいたいこつを骨折して、補強のた

めのボルトが二本入っている。よつて、空港の保安検査で必ず金属探知機にひっかかるということ

「注2」ノープロブレム：「問題ない」という意味の外来語

「注3」環七：東京都道三十八号環状七号線のこと

「注4」新古書店：主に近年に出版された本を売る古書店

「注5」母が死んだときのように馬鹿なことをしでかす：睡眠導入剤すいみんどうじやくざいで自殺じくをはかつたこと

(一) 太字部アゝキのひらがなを漢字に直しなさい。

ア ぜい イ せんぞ ウ げんめい エ ふくごう オ つと(め) カ き(いた) キ あくたい

(二) 【 \* 】に入る最も適切な言葉を文中から抜き出して答えなさい。

(三) 傍線部「そういう問題じゃない」とあるが、どういふ問題なのか。最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 赤ん坊の世話をするしないではなく、繊細な母親がなぜ粗雑な人を夫に選んだのかという問題
- イ 赤ん坊が人見知りするしないではなく、預かるに際して事前に僕に相談しなかったという問題
- ウ 赤ん坊の世話をするしないではなく、さまざまな点で僕の生活のリズムが乱されるという問題
- エ 赤ん坊の世話をするしないではなく、保育士でもない父が他人の赤ん坊を預かるという問題
- オ 赤ん坊が人見知りするしないではなく、保育士でもない父が他人の赤ん坊を預かるという問題

(四) 傍線部「不謹慎ではあるんだけどな」とあるが、どのような点が不謹慎なのか。最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他人の迷惑を顧みず、公共の場で大よろこびしている点
- イ 母親の許可も取らずに、危険な場所に連れ出している点
- ウ 僕をひとり残して、父と赤ん坊の二人だけで外出した点
- エ 母の死を乗り越えられずにいる僕を気づかしていない点
- オ 他人の不幸に関することなのに、大よろこびしている点

(五) 傍線部「なぜだかひどく腹が立った」とあるが、なぜなのか。その理由として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 上着が汚れるのもかまわず世話をしている父を見て、赤ん坊に嫉妬したから。
- イ 上着を洗濯するのは自分の仕事であるのに、赤ん坊に汚させて平気であるから。
- ウ まだ赤ん坊なのに、不潔な上着に口をつけさせる父の無神経さにあきれたから。
- エ 赤ん坊の抱き方も知らないのに、赤ん坊を預かる父のいい加減さにあきれたから。
- オ 自分の生活を乱しているのに、図太く眠りつつける赤ん坊の態度にあきれたから。

(六) 傍線部 「いつものことなのだが今日は本気で怒りがこみ上げてきた」とあるが、それはなぜなのか。その理由として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 気分が悪く、今日だけは納豆が食べたくないのに、無理に食べさせようとするので。  
イ 普段は受け流せることなのだが、赤ん坊のせいで気持ちに余裕がなくなっている。  
ウ 父が無茶をするのは分かっていたが、赤ん坊にまでカレーを食べさせようとするので。  
エ 食事の最中にもかかわらず赤ん坊がうんちをし、その臭いに我慢ができなかった。  
オ 僕に何の相談もなく、赤ん坊を預かってきた父への怒りがまだ解けていなかった。

(七) (A) (E) に入る最も適切な言葉をそれぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じ記号はくり返し使わないこと)

- ア 後悔　イ 動転　ウ 放心　エ 危惧　オ 仰天

(八) 傍線部 「ドライブを断らないのは、たぶんそれが理由だ」とあるが、どのような理由なのか。最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 父は、もともとめつたに怒らない人で、そういう点が好きで、いつも一緒にいたいので。  
イ 母が死んだときの様に僕が馬鹿なことをしてかすのを、父は大変に恐れているので。  
ウ 僕を社会復帰させるために、無理にはなく、それとなく誘ってくれているので。  
エ 食器棚を壊したり、部屋をめちゃくちゃにしてしまったことで父に負い目があるので。  
オ ずっと続く週末の行事であり、定番のカレーと同じくらい数少ない楽しみの一つなので。

(九) 傍線部 「ひなた」とあるが、空欄に入る適切な三字のひらがなを答えなさい。

(十) 傍線部 「父は僕を見て微笑んだ」とあるが、この時の父の気持ちとして最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大きくなった息子も、かつてはこの赤ん坊のようだったと昔をなつかしく思う気持ち

イ 赤ん坊であつても他人を受け入れられない息子の言動を、子供っぽくかわいと思う気持ち  
ウ 大きな体をしていながら、ちいさな赤ん坊を恐がる息子のことを馬鹿にする気持ち  
エ 今にも感情を爆発させそうな息子を見て、笑顔を作り息子をなだめようとする気持ち  
オ 赤ん坊がおとなしくしているのは間違いのないのだと、自信を持って主張する気持ち

(十一) 傍線部 「なぜだろう、直視するのがつらくなってくる」とあるが、なぜなのか。その理由として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ゲームのしすぎやテレビの見すぎで、目がしょぼしょぼして、見続けることができなかつたので。  
イ 輝く黒目やピンクのほっぺたなど自分には失われたものを持つ赤ん坊がなんとなく憎かつたので。  
ウ いつまでも拒絶しているのは大人げないと思うが、やはり赤ん坊は疎ましく不気味なものである。  
エ 赤ん坊には生活を乱そうとする意図はないのに、侵入者として恐れている自分が恥ずかしいので。  
オ 好奇心はあるが、父が自分に何の相談もせず連れてきた赤ん坊だと思つたとやはり腹が立つので。

(十二) 傍線部 「まあくんも抱いてみるか」とあるが、この時、父はなぜこのように言つたのか。その理由として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 赤ん坊に接するのは決して難しいことではないと、息子に身をもつて理解してほしいから。  
イ いずれは息子にも赤ん坊の世話をおしつけるつもりで、そのためには慣れてもらいたかつたので。  
ウ 本当は息子の弟なので、一度でも抱いてみればそのことが分かるのではないかと期待したため。  
エ 赤ん坊を一度でも抱いてみれば、息子も幼かつた頃を思い出して、素直になるのではと思つたので。  
オ 息子の嫌がることを何度か試みて、どのくらい怒るのが反応を見てみようと思つていたので。

(十三) 傍線部 「ふたりとも死んでしまえ」とあるが、この時の僕の気持ちとして最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 意図的に自分の生活を乱しているのに、仲良くしている二人を見て、心底腹が立っている気持ち  
イ ふたりに対する自分の感情が整理できず、相手を全否定することで、平静を保とうとする気持ち

ウ 父に赤ん坊を取られたようで疎外感を抱き、いつそ二人ともいなくなつてほしいと願う気持ち  
エ いい加減なことしかしかない父や、疎ましくて不気味なだけの赤ん坊に我慢ならぬと思う気持ち  
オ 頬つぺたに口をつけて息を吹きかけて遊ぶなど、死ぬほど低レベルな二人を心底軽蔑する気持ち

次の文章を読んで後の問に答えなさい。

『ドラえもん』は「男の子でも女の子でも楽しめるコミック」として提供され、実際そう読まれていた。しかし、たとえば見は「注1」ユニセックスであつても、『ドラえもん』は作者が男性であり、主人公が男子であることから、そこに描かれている世界は、男の視点によつて成り立つてしまう。『ドラえもん』は、基本少年マンガであり、だけど、女の子も楽しめるよ、というものだと思えるべきだ。たしかに、女性の「ドラえもん」ファンも多い。だが、X『ドラえもん』はあくまで男の視線から描かれている。

『ドラえもん』の根底には女性蔑視と女性敵視があるのだ。Y「注2」フェミニズムの論客たちはそれを敏感に感じ取るので、『ドラえもん』を敵視し、なかでも源静香を目的にする。

『ドラえもん』における女性蔑視・敵視は、作者が戦前の昭和に生まれ、「**【**」の教育を受けて育つたことと関係があるかどうかはわからないが、その**【せだい】**が描いたものだということは記憶しておくべきだ。単純な男目線が、源静香の入浴シーンなどセクシーシーンであることは言うまでもないが、彼女に「女の子」以外の役割が与えられていないことが、『ドラえもん』の世界観が「男から見た世界」でしかないことを**【A 露呈している】**。

ドラえもんを除いた、のび太、ジャイアン、スネ夫、出来杉君の四人の男子には、性格がきちんと振られている。それはあまりにも「注3」ステレオタイプでまさにマンガでしかないが、彼らは**【こゆう】**の個性と能力（能力のなさという能力）をもつ。

のび太は「何をやってもダメで、ダメなことを自覚していて、だけど改善しようという努力を怠る者」であり、ジャイアンが「腕力があり、自分勝手に、乱暴者」で、スネ夫が「金持ちで、イヤミで、嘘ばかりつく者」。それぞれが欠点を持つ者、つまり「怠け者代表」「乱暴者代表」「嘘つき代表」である。そして出来杉君は、ハンサムで成績もよくスポーツも万能で女の子に優しいという、絵に描いたような（マンガだからまさにそうだが）「出来すぎた」少年である。

では、源静香はどうか。彼女は出来杉君のような「絵に描いたような優等生」のようであり、そうではない。たしかに源

静香は、のび太、ジャイアン、スネ夫のように決定的な人間的欠点をもたない。といって、「かわいい」という点以外は、成績が抜群はつぐんにいいとかスポーツ万能ばんのうであるとか、歌や踊りおどがうまくて芸能人に憧あこがれているとか、弱い者いじめを許さない正義感の強い子だとか、そうしたステレオタイプの長所もない。

さらに、のび太、ジャイアン、スネ夫が「サラリーマン家庭の子」「自営業者の子」「金持ちの子」という社会的属性をもつのに対し、源静香の家庭はよくわからない。彼女の両親については、のび太の両親はもちろんジャイアンやスネ夫の両親ほどは登場しない。彼女は「○○の子」ですらないので、彼女の父もまた「しずかのパパ」以外の役割をあたえられない。父親の職業も不明だ。源静香は社会的属性として「かわいい女の子」以外、何ももたない。

『ドラえもん』のドラマには、源静香以外の女の子は風景としてしか登場しない。源静香がいつしよに縄跳なわとびをして遊んでいる女の子たちには、名前も性格も与えられない。意地悪な子、ませた子、おとなしい子、成績のいい子といったさまざまなステレオタイプの女の子がいて、そのなかで源静香が差別化され、ヒロインとしての特権を得ているわけでもない。源静香という「いちばんかわいい子」がいるだけで、二番目以下の子のことは描かれぬ。源静香には「女の子」以外の物語上の役割が与えられていない。そして、その「女の子」像は、あくまで男から見た「女の子」である。

村瀬ひろ美はB 辛辣に源静香を批判する。

ドラえもんの中の、紅一点としてのしずかちゃんは、女の子の実感をはるかに超こえているキャラクターである。かわいくて、優しく、勉強もできて、賢かくて、男の子の顔をつぶすようなことはしないし、のび太のお嫁よめさんという将来もほぼ決まっている。

だいたいしずかちゃんというキャラクターは「怒ど哀あい楽らくがわかりにくい。いつもおすまししていて、自分を主張するところがない。情けない男の子ののび太に毎回心優しいフォロワーを決めてくれる。」

これだけ膨大ぼうだいなシリーズものでありながら、しずかちゃんがいったい何を考えて行動しているのか、どんな風に世界を感じているのか私には伝わってこない。のび太に対する描写としずかちゃんに対する描写の落差は大きくて、のび太の【怒哀楽などの感情、世界観は微びに入り】【に入り表現されるのに、しずかちゃんの描写はウへいばんで精彩せいさいを欠く。ドラえもん世界が伝えるメッセージの一番強いものは、女の子は、男の子に守られるべきだ、そのかわりに優しい心遣いこころづかいで、男の子をフォローするべきだというものだ。まさに「男の口マン」がブンブンと鼻に付く。「男の口マン」によって 勝手に作られたキャラクターがしずかちゃんだ。紅一点のお手本のような存在なのだ。

この分析は、とりあえず、正しい。

男である私にも源静香という女の子は理解できない。といって、私が源静香以外の女性ならば理解できるのかというと、フィクションの世界であれ現実の世界であれ、女性を本当には理解していない、だろう。そういうものなのだ。そして女もまた男を理解できないだろう。

男が「女」のもつまざまな要素の中で完全に認識できるのは「外見」のみである。好き嫌いはあるにしても、源静香は「かわいい女子」である。のび太にしても、クラスの子とつきあい、その性格や能力を吟味したうえで、源静香を選択しているわけではないだろう。「いちばんかわいい子」という理由で彼女を好きになっっているに違いない。

源静香は、「結局のところ、男が理解できない女の子」の象徴として、そのまま描かれている。男から見れば「女の子なんて、みんな、理解できないもの」だから、源静香にも違和感はない。彼女は「クラスでいちばんかわいい子」として認識され、男たちは何の疑問もなくそれを受け入れる。重要なのは、ただ一点、「外見がかわいい」という点のみである。

源静香という存在は、彼女に疑問を抱くかどうかで、フェミニズムという考え方がこの世にあることを理解できるかどうかの、一種のリトマス試験紙なのかもしれない。こういう子はフェミニストから批判されるだろうなど感じた人は、フェミニズムの「エソよう」がある、まるで感じない人には、何万語を費やしてもフェミニズムを理解させることはできないだろう。しかし源静香は「かわいい」だけではない、彼女は映画版においては大活躍するのである。もちろん、戦闘集団での紅一点としての限界はあり、その点での批判はされるかもしれないが、映画版『ドラえもん』における源静香は「戦闘美少女」としても活躍する。

だが、この「戦闘美少女としての源静香への評価は低い」というか、ないに等しい。それどころかあまりにも頻繁に「ドになってしまうこと」で、さらに批判される。村瀬には、源静香はこうも批判される。

「だいたいシャワーを浴びているところを、あれだけ何度ものぞき見されていながら、「キヤー」で済ますのは許せない。「キヤー」と叫ぶのが精一杯なのだろうか？ そこには弱々しい、可憐な女の子の「系譜」が脈々と生きている。

フェミニズムの論客から、「紅一点だ」「風呂に入りすぎる」などと批判されるわりに、源静香は男子の人気を得ていない。映画版ではときには武器を手にとって闘うのに、彼女は「戦闘美少女」として認識されていない。小学生だからである



世間が求める「優しい母親」としての「母性」が描かれていない点において、『ドラえもん』はかなり「注5」ラディカルなフェミニズムであると解釈することも可能だ。

女はみんな母親になりたいわけではない。母親になったからといって、「優しさ」を期待されては困る。だいたい「優しいママ」なんていうのは、身勝手な男たちがでつちあげた幻想に過ぎず、女はそれに付き合う必要はないのだ。という論を主張するフェミニストにとって、野比玉子は極めて理想的な「母性のカケつらくした母親」である。そして彼女は専業主婦として、夫の収入を管理しているという点で、「注6」シャドーワークとなりがちな家庭内の女の主導権を夫から奪還することに成功している。

そして、この「カケつらくした母性」という点では、源静香も例外ではない。彼女が成人し、野比のび太の妻となった「未来」のシーンでは、彼女は息子ノビスケの口うるさい母親となっている。「かわいいしずかちゃん」は「怖いママ」になっているのだ。

『ドラえもん』における女性が「女の子」と「母親」しか登場しないのは、小学生男子にとっての女性が、この二種類しかないからだ（姉妹が居ない子、女の教員に教わらない子もいる）。

フェミニズムとして『ドラえもん』を批判するのであれば、「女の子」と「母親」以外の女性を描いていないことを批判すべきであろう。

その意味で『ドラえもん』の世界観は古い。ユニセックスのコミックで女をこのようにしか描かないことについては、批判されても仕方がない。

だが、あくまでも批判されるべきは藤子不二雄であり、源静香ではない。と、私はあくまで源静香を「かわいいんだから、いいじゃん」というレベルで擁護するのである。

（中川右介『源静香は野比のび太と結婚するしかなかったのか』より 一部改めたところがある）

「注1」ユニセックス：男女を区別しない

「注2」フェミニズム：性差別を廃止し、女性の権利を拡張しようとする思想、運動

「注3」ステレオタイプ：型にはまった

「注4」一般職と総合職：企業の採用の形態。総合職の方が企業の基幹となる業務に携わり、責任範囲が広く、結婚退職する可能性が低いとされる。

「注5」ラディカルな…急進的な、極端な  
「注6」シャドーワーク…目立たない仕事

(一) 太字部ア～カのひらがなを漢字に直しなさい。

ア せだい    イ こゆう    ウ へいばん    エ そよう    オ きてん    カ けつらく

(二) 太字部A～Cの言葉の意味として最も適切なものを次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A 「露呈<sup>ろてい</sup>している」ア 表現している    イ あらわにしている    ウ 語るうとしている    エ 示そうとしている  
B 「辛辣<sup>しんらつ</sup>に」ア 腹を立てながら    イ 嫌いに思いつながら    ウ 手厳しく    エ 手ぐすねをひいて  
C 「系譜<sup>けいふ</sup>」ア 影響のあるつながり    イ 魅力的な長所    ウ 共感できない短所    エ 超えられない限界

(三) 【    】に入る語として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 男女平等    イ 男耕女織    ウ 男女対立    エ 男尊女卑<sup>だんそんじよひ</sup>

(四) 傍線部「彼女は「○○の子」ですらない」とあるが、どういふことか、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 源静香は、結果的に、親が存在しないという設定で描かれているということ  
イ 源静香は、両親ひいては自身の社会的属性が不明のまま描かれているということ  
ウ 源静香の両親は、そもそも物語の中にあまり登場しないということ  
エ 源静香は、人格をもたない「女の子」として踏<sup>ふ</sup>みにじられているということ

(五) 傍線部「源静香以外の女の子は風景としてしか登場しない」とあるが、どういふことか、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 源静香は、さまざまな女の子の中で差別化されヒロインとなった存在ではないということ  
イ 源静香以外の女の子は、「かわいい女の子」として描かれていないということ

- ウ 『ドラえもん』に出てくる女子は、源静香以外は名前や性格を与えられていないということ  
エ 『ドラえもん』では、ヒロインである源静香以外の女子の名前や性格は描かれないということ

(六) 空欄【 】はそれぞれ四字熟語、慣用句の一部であるが、それぞれに当てはまる適切な漢字一字を書きなさい。

(七) 傍線部「『男のロマン』」とあるが、この文脈でその内容として不適切なものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 女の子は自らの意志を持ってはいけない。      イ 女の子は男の子より強くはいけない。  
ウ 女の子はかわいくなければいけない。      エ 女の子は男の子を助けなければならない。  
オ 女の子は内面が強くなければならない。      カ 女の子は感情的になつてはいけない。

(八) 傍線部「勝手に作られたキャラクター」とあるが、なぜ「勝手に」そのような「キャラクター」が作られたと筆者（中川右介）は考えているか、不適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 『ドラえもん』の作者は昭和の戦前の生まれであり、古い考え方の影響を受けていた可能性があるから。  
イ （源静香に限らず）女性の内面などというものは、男性にとつてはわけのわからないものでしかないから。  
ウ 『ドラえもん』において、源静香は自分を主張することのない、優しいキャラクターだから。  
エ 男性にとつては、女性というものの理解できる側面は、「外見」しか存在しないから。

(九) 傍線部「戦闘美少女としての源静香への評価は低い」とあるが、それはなぜか、不適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 映画版以外では自ら積極的に何かをしようという存在としては描かれていないから。  
イ お風呂に入り、それをのぞかれるという形で登場することが非常に多いから。  
ウ 女性があこがれないような将来をたどることが広く知られてしまっているから。  
エ 「戦闘美少女」であるとはいっても「戦闘集団での紅一点」としての活躍であり、限界があるから。

(十) 傍線部 「総合職を選択しても源静香は成功する可能性が高い」とあるが、それはなぜか、最も適切なものを次のア  
ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 絵に描いたような優等生であるから。      イ 外見がかわいいから。  
ウ 知的で、戦闘的で、心優しいから。      エ わりと早く結婚してしまいそうだから。

(十一) 傍線部 「彼女の人生は「転落」以外の何物でもない」とあるが、なぜそう言えるのか、次のアウオの中から最も  
適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 専業主婦になってしまったから。      イ 一般職で就職したであろうから。      ウ 総合職なのに退職したから。  
エ 魅力的な個性をもたないから。      オ 魅力的な境遇きょうぐうに至っていないから。

(十二) 傍線部 「「女の子」の矛盾むじゅん」とあるが、「矛盾」の具体的な内容として最も適切なものを、次のアウエの中から  
一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 場合によっては第一線で活躍することを、場合によっては男性を支えることを、求められる。  
イ ある時は頭のよいことを、あるときは運動能力がすぐれていることを、求められる。  
ウ 外見がかわいいことと、内面がやさしいことの両面を同時に求められる。  
エ ある時は外敵と、ある時は仲間からの嫌がらせと戦うことが求められる。

(十三) 「」に入るひらがな五字の表現を自分で考えて書きなさい。

(十四) 二重傍線部X「『ドラえもん』はあくまで男の視線から描かれている」とあるが、それはどういう点においてか、  
文章全体の内容から判断し、適切なものを次のアウオの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 源静香を、守られるべき、男性をフォロウする存在として描いている点  
イ 源静香を男性の性的な視点からも描いている点  
ウ 源静香を、「戦闘美少女」として活躍する存在として描いている点

エ 源静香がのぞき見をしている男を笑って許している点  
オ 登場する母親を一般的な母性をもたない存在として描いている点  
カ 女性の登場人物が「女の子」と母親しかない点

(十五) 二重傍線部 Y 「フェミニズムの論客たちはそれを敏感に感じ取るので『ドラえもん』を敵視し、なかでも源静香を  
目の敵にする」とあるが、このような「フェミニズムの論客」について、筆者はどう考えているか、次のア、オの中  
から適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 『ドラえもん』の根底にある女性蔑視や女性軽視は、藤子不二雄の戦前に受けた教育の影響が大きいと考え、その  
ような藤子を攻撃するフェミニストの態度は間違っていると考えている。

イ 『ドラえもん』が男の視線で描かれていることを問題にするのであれば、さらにそれが現在にそぐわない古い状況  
をもとに描かれていることにフェミニストは気づくべきだと考えている。

ウ 『ドラえもん』の根底には女性蔑視や女性軽視があり、それが源静香の描かれ方に現れている、とするフェミニス  
トの分析については大きくは間違っていないと考えている。

エ フェミニストは、『ドラえもん』における源静香の扱いを攻撃的に論評し、それは一理あると考えているが、だか  
らといって源静香の魅力が失われるわけではないと考えている。

オ フェミニストは、『ドラえもん』に描かれている女性の理想像のあり方が古いと攻撃しているが、「女の子」と「母  
親」以外の女性が描かれていないという世界観の古さには気づいてない、とはがゆく思っている。

(十六) 二重傍線部 Z 「源静香は野比のび太と結婚するしかなかったのか」は原文ではこの部分の後にあるが、どういう二  
ユアンスでこの表現が用いられていると考えられるか、次のア、エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答え  
なさい。

ア そうでなければ、もっと好かれたかもしれないのに。

イ そうでなければ、もっと幸せになれたかもしれないのに。

ウ そうでなければ、生きていけなかったのではあるまいか。

エ そうでなければ、フェミニズムの批判の対象にはならなかったのに。



(一)	ア		イ		ウ		エ		
	オ	め	カ	いた	キ				
(二)				(三)				(四)	
(五)				(六)					
(七)	A		B		C		D	E	
(八)				(九)				(十)	
(十一)				(十二)				(十三)	

(一)	ア		イ		ウ			
	エ		オ		カ			
(二)	A		B		C			
(三)				(四)			(五)	
(六)					(七)		.....	
(八)				(九)			(十)	
(十一)				(十二)			(十三)	.....
(十四)	.....			(十五)	.....		(十六)	

得点	取巻細目

後期 B 解答

(58点)

(一) ア税 イ先祖 ウ言明 エ複合 オ勤(め) カ効(いた) キ悪態

7点

(二) それ (三) ウ (四) オ (五) ア (六) イ

4点 × 5 = 20点

(七) A イ B オ C ア D ウ E H

10点

(八) ウ (九) ほつじ (十) イ (十一) H (十二) ア (十三) イ

4点 + 1点 + 4点 × 4 = 21点

(62点)

(一) ア世代 イ固有 ウ平板 エ素養 オ機転 カ欠落

6点

(二) A イ B ウ C ア (三) H (四) イ (五) ウ (六) 書 細

2点 × 3 + 3点 × 3 + 1点 × 2 = 17点

(七) オ カ (八) ウ (九) ウ (十) ウ (十一) オ

3点 × 6 = 18点

(十二) ア (十三) したくない (十四) ア イ (十五) イ ウ (十六) ア

3点 × 7 = 21点